

「研究プロジェクト4 「立教中学校関係資料研究」報告

油井原 均

二〇一一年一月のプロジェクト4研究会では、学校の「入口（入学者と入学試験の動向）」と「出口（卒業／修了者の進路動向）」に着目していく必要性が提起された。それをうけて、本年度「立教中学校関係資料研究」は、旧制立教中学校関係資料の目録データ作成に加えて、昭和初期在籍生徒の進学動向分析をおこなった。進学動向分析にあたって主な資料としたのは『各年度上級学校入学者調』（立教池袋中学校・高等学校史料室所蔵）である。この資料には、一九二六（昭一）年から四二年までの氏名・進学先学校などが掲載されている。分析の詳細と成果については、本号に掲載された論稿を参照してほしい。

本年度は、年度ごとのデータ表が作成できた時点で、それらを研究員宛送信し、プロジェクト推進を図った。しかし、諸般の事情により研究会そのものは一月九日に一回開催したのみとなった。各研究員とも多忙ではあるが、次年度以降は年二～三回程度の研究会開催による

推進を図りたい。

なお、前年度に引き続き伊藤俊太郎氏（元立教中学校教諭、一二年史編纂委員）には、研究推進にご協力いただいた。一二年一月には、池袋中高史料室において研究員（安達・奈須・油井原）が伊藤氏より主な所蔵資料について説明していただく機会をもつことができた。その折に、新制中学校期の貴重な資料が数多く所蔵されていることも確認でき、今後の一五〇年史編纂にむけても重要な機会となったように思う。伊藤氏には、この場をお借りしてあらためて御礼を申し上げます。